

博士論文審査基準

審査方法

博士論文の審査は、主査1名と副査2名が論文の内容と試験（研究内容の発表と口頭試問）により、合議で行う。

審査のポイント

博士論文は、新規性、有効性、信頼性および以下の1～8について審査を行う。

1～8については、各項目について4段階（A～D）で評価し、すべての項目において「C」以上と認められることを合格の要件とする。ただし、新規性と有効性はどちらかが高ければ良い。

評価：A（優）、 B（良）、 C（可）、 D（不可）

新規性：先行研究・論文を十分に吟味して新規性を主張している。研究分野・研究領域の学術論文を基準にして、従来の論文に比べて差異が認められる場合、新規性があると評価できる。

有効性：得られた効果が大き、結果の適用領域が広い、結果の適用による利益が大き、現実世界（臨地・臨床）への対応が十分に配慮されている、新しい研究につながる可能性が高いなど。

信頼性：十分具体的に記述されている、得られた結果に対する分析が十分になされている、考察の展開に明らかな誤りがない、前提条件が明確である、ありそうな反論を考慮に入れ、回答を提示しているなど。

1 論文構成

論文は要旨、緒言（目的）、研究方法、結果（成績）、考察、結論（結語）、引用文献リスト、図表で構成され、学術論文の体裁が整っているか。

2 問題設定

研究テーマに関連する先行研究を十分に吟味し、研究の背景や意義についての知識の整理が十分になされた上で、問題設定、研究目的が述べられているか。

保健医療学分野における学術的意義に即した問題設定（研究テーマ）であり、これまでの研究にない独自の視点があるか。

3 研究方法

先行研究を十分に理解し、研究目的に適する研究方法が採用されているか。
分析方法が適切であるか。

4 結果

研究目的に適したデータ収集が行われ、データ分析結果は信頼できるか。
結果の本文、図、表などの記述は、研究目的および研究方法に適合したものであるか。

5 考察

得られた結果についての新規性、有効性、信頼性および研究の限界や残された課題について、考察しているか。

6 結論

研究目的に対して、立証されたこと立証できなかったことを明確に述べているか。

7 引用文献

引用文献の内容が正確に解釈されているか。

8 口頭試問

口頭発表は論理的に分かりやすく構成され、口頭試問にも的確に説明しているか。